



発行所 磐城日日新聞社
 福島県石川郡小名浜町西地51
 電話 887番
 編集人 高瀬 謙郎
 発行人 高瀬 謙郎

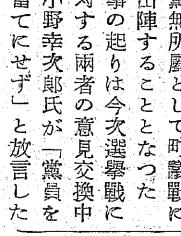
社会党小名浜支部の 新田氏脱党して起つ 町議戦に新風をおくる



日本社会党小名浜支部遊説部長新田元次氏は、昨六日選挙開演折の折柄、計らずも支部長小野幸次郎氏と選挙作戦に對する見解の相違から、小野氏と決裂、遂に社会党を脱党無所属として町議戦に出陣することとなった。事の起りは今次選挙戦に對する両者の意見交換中、小野幸次郎氏が「黨員を當てにせず」と放言した。

ことに端を究し、新田氏は「黨員を當てにせずぬ政の在り方とは何ぞや」と詰り、遂に小野幸次郎氏に相容れずとして脱党、白紙となつて立候補することに決した。こので、ゴム靴の修理に忙しい眞の勤勞大家の味方を標榜する新田氏は修理の靴を膝の上に置いたまゝ語る。

候補者を語る ③ 「勿來」 赤津庄兵衛氏



「勿來」赤津庄兵衛氏は、かの國の言葉にも「衣食足つて禮節を知る」とあるが、赤津庄兵衛氏は大品製造で、衣食足り過ぎたか、禮節の失つた風評が高い。こうした人物は、勿來町長、縣議二期の過去の経歴の中でも、斷然大きいマイナスの点となり今日の赤津氏を依然として擁護して菊田一圓から浜通りの

線に懸然たる赤津ラインを形成している、福島縣商業組合連合會々長、植田地区商業組合理事長、全地区信用組合理事長、等の現職の外、勿來町遺族會長同町漁業會長、更に遺した努力の跡は、今日何と言つても町工農面の第一人者として再び縣議戦に押し出された。信譽からも想像出来よう。△中小企業資金融資の円滑化を圖り現下日本經濟の母体をなす同業界の擴充と發展を計りたい。△農業日本の唯一の協同農協の充實強化に挺身したい。△漁港改修の促進を計り

△調製現在期日 四月十五日
 △登録申請期日 四月十五日(十九日)
 △調製期限 四月二十一日
 △投票期間 四月二十二日(廿四日)
 △異議申立期間 四月二十六日
 △確定期日 四月二十六日
 尚申請の方法は選挙管理委員會に申出ること

湯本町選管及職務代理

湯本町選挙管理委員會(委員長比佐芳氏)では四月三十日執行の縣議會一般選挙における投票の管理及其他の職務を代理する者を次の通り選任した。

第一投票所 西澤喜太郎
 第二投票所 白石 義雄
 第三投票所 上淺見一〇
 第四投票所 三浦一五二 比佐 芳

小名浜協組緊急役員會

一昨五日小名浜漁業協同組合にて緊急役員會を開催、貯水の處理、其他に就き協議の結果、昨秋さ貯水が現在六千本あり、この速かな處理のため、製水運營業委員會の活躍を促進する事に決定した。

土地買収で総務委開催

小名浜町會總務委員會は去る午前九時より役場町長室に於いて高木(嘉)江尻正副委員長、比佐、村上、木村の委員に菅原議長、坪内教育、佐藤(政)經濟兩委員長、水野町長、鈴木厚生課長等が出席して保存所敷地買収價格について協議した。

縣水産の特殊性を活用し、と抱負の一端を述べ、同氏の體は、旺盛な政治力行使の意欲に燃えて、本年五十七才の働き盛り家事一切は長男に委せつきり、東奔西走公務のため文字通り席温る暇ない活動はまさに驚異に値する。野球の升田とまで言われる長男と次男は親立候補の情しい空氣の中で春の野球戦に備え、悠々チボールをやつたりキヤクチボールをやつたりした。さすがに父君出陣に無感ではない、兄貴のグローブに最終球がボンとおさまつたところで、前期

磐城日日新聞 200号記念

日本水素工業株式會社 社長 莊野精二 郎	清水屋酒造元 小野義一	千代田重機KK顧問 大井川正己	磐城貨物小名浜第一營業所 菅原勳	銘酒 磐城樓 長瀬彰義	磐城座 小野直千賀	金星座・銀映 田中ヨシ	小名浜臨港鐵道株式會社 社長 竹川久仁 専務 浦田文二郎	日本冷蔵株式會社小名浜工場 工場長 八島正太郎	小名浜港灣運送株式會社 社長 西丸猛
酢屋漁業部 野崎貞行	青少年補導所 立花秀吉	林鐵工所 林平	觀音丸漁業部 齋藤誠吾	三勝漁業部 三代義勝	稻屋味噌醬油 江尻三睦郎	國華産業社長 小野禮一	公誠學館西町分教場 飯塚新四郎	小名浜漁業協同組合 飯塚新四郎	富塚義成
みなと食堂 飯塚勝	ゴム靴修理 新田元治	漁業部 高木嘉一郎							

勝丸に探知機採用 今後の漁法に一轉機

立っている状況に比し致致の勝丸の今回の擧げが、船も遂次採用する機運にある。

小名濱町漁業十統の興亡を決すると言われる今年漁期に魚探を採用した事は保守性の強い漁界に活路を開くものとして極めて注目されている。

指定業者以外
新天の販賣禁止
湯本町役場衛生課及び平保健所では従来はどの店舗でも販賣していた「ところ天」を食品衛生法により今後は飲食店、喫茶店の営業店以外での販賣は禁止することにしたので、従来は湯本町後発見した場合は厳罰にしようとして一般に警告している。

小名濱町古港三代勝丸氏所有第七勝丸は去る三日、鮫子にて魚探探知器を装着し、昨日午後試験漁を行ったが早速鮫子沖にて大アジ四百貫を漁獲し科学的漁法に凱歌を挙げた。福島縣下に於ける魚探裝艦船は縣指導船共盛丸一隻のみで千葉、神奈川縣はじめ九州地区漁船の大半が本装置を既に設備し

小野、大河原氏届出 郡下の縣議候補一七名

五日石城地方事務所に出た縣議候補者は二名でこれに郡下では十七名となつた。

▽小名濱町大字上明神町 一九酒造業小野義一(四一)氏—自由黨

▽好間町大字小谷作九六 三ノ醬油製造業大河原茂平(五二)氏—自由黨

五日市議立候補届け出をしたものは四氏でこれに五十二名となつた。

▽下平窪字寺内一四農業 江尻忠平(四五) 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽鎌田町三五農業鈴木定一(五二) 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽湯城跡二七七 社重役金吉政通(五二) 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽自由黨 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽中野谷字刈置 七四農業志賀傳吉(四一) 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

市議候補 更に四名

平職安ではかねて計畫中であつた自動車修理工を内容とする平公共職業指導所(定員五十)設置問題については縣から四日付で設置委員が次の如く任命されたので、本格的な設置活動を展開する運びとなつた。

▽設置準備委員長、平市 助役—阿部治英、平工業 學校長—小野壽治、常務 交通會社社長—野崎滿藏、スビー—自動車商會々 長—大内昌吉の四氏

▽設置準備委員

警備貨物事務—張口唯七 郎、佐藤自動車工業社長 一 佐藤竹雄、トヨダ自動車 平営業所長—佐藤武、市會議長—金古政通、市 會副議長—松本金市郎、 縣會議員—馬目武之助、 市議員—石山一治、以

浮遊機雷を發見 八丈島附近に警戒

小名濱漁業無線局への入 電によると、江名町無線船 營している高橋久子さん より言葉たくみに校舎増 築をもちかけ契約金五萬 円を横領詐取して逃走し たため指名手配中のこの 小名濱町後宿山大旅館 個(隅角十二)を発見 した同地区は艦船の漁場 で本縣船も多数出漁して いるので充分警戒する様 小名濱海上保安部では警 告している。

横領犯人を 小名で逮捕

植田町台町四二越後屋(小松リン)さん方では三 日午後九時頃より十時迄 の間に店頭を生菓子一千 円相当を盗まれ植田町に 届け出た。

生菓子盗る

交渉に曙光見ゆ 戸部炭礦無期限スト

戸部炭礦労組では去る三 月十一日買上げ要求を会 社側に交渉したところ拒 否され無期限ストを宣言 直ちにストに突入し二十 六日間の現在に到るも尚 斗争を續けている。

結果としては四日五日 同炭礦の組合員三百五十 名は現行の三六三円一ペー スは現下の出炭量、販賣 價格、諸経費とらみ合 せても買上げ可能な経営 状況にあり却つて最近の 経済状況下、組合員の生 活向上こそ切実な問題で あると強固な意志を以て 結束している。

なつ勢組側では四日五日 〇〇〇〇〇〇〇〇の二日間、東京日礦本部 加藤清宣部長と日銀常通

金比羅丸が 死体を收容

一昨五日十二時頃江名町 中出崎男氏所有金比羅丸 (二七七)は江名沖で出 漁中、江名町第三太陽丸 の殉職者機體長田中房義 (四二)氏—江名町大字 永崎字大平一の死体を收 容した。

強盗容疑者 自宅で検挙

平市署では茨城縣久慈郡 佐竹村天神林無頼根本操 (三三)を二月三日平市 七軒町八雜貨街市川よし の(三〇)方を襲つて現 金八百圓煙草若干を強奪 した容疑者として指名手 配中だつたが四日阿部探 偵長、馬野刑事兩名が實 家から逮捕して五日市署 に連行した。

魚菜市況 日

【小名濱中央魚菜市場】
きまつ川五七〇円、とう じん二〇〇〇円、かた がしら四〇〇円、またこ 一四〇〇円、えび二〇〇 圓、たら一〇〇円、どん 二〇〇円、めくき四〇 〇〇円、めくき二七〇円 〇〇円、めさめ二七〇円

磐城日日新聞200號記念

伊勢屋商店	佐藤貞吾	小名濱高等學校PTA副会長	金澤勉	安樂菓子店	小野作太郎	未亡人會長	鈴木イセ	磐城毎日小名濱支局長	小野務平	有限會社小名濱造船所	社長 藁谷寅之助	小泉屋書店	山野邊茂	小名濱郵便局長	三浦宗長	名杏會	製材業	小野長壽	栗原建設株式會社	小名濱出張所	柏屋文房具	長瀬啓一	木田材木店	木田谷平	竹の湯	藤社大	山マス漁業部	馬上喜一	小名濱藝妓置屋組合	小野廣	小名濱町銀行團
小濱電機工業所	小濱敬太郎	小名濱町婦人會	大田原憲太郎	磯上佐衛司	うばの湯鑛泉	織内農機店	佐川忠七	榮洋服店	太明	湯本青果物市場	社長 石河傳吉	馬目石材店	馬目隆義	鈴木木道太郎	いろは食堂	鈴木木	柳大屋	常磐商事RK	専務 江尻功造	旅館藝妓置屋	高萩佐久馬	制菓すし	松本庫造	海老原正一							